

加工中の工具状況測定

産総研と
共同
「ジェイネット」が着手

【さいたま】ジェイネット（埼玉県越谷市、長谷川浩幸社長、048・973・1030）は、高速加工に対応する測定技術を産業技術総合研究所デジタルものづくり研究センター（松木則夫センター長）と共同開発する。

同社の機上原点測定器「ジェイコア」を改良し、搭載した電荷結合素子（CCD）カメラによる1秒間の撮影枚数を17枚から80枚に増やす。2010年度の製品化を目指す。

ジェイコアはマシンニングセンターに取りつけ、発光ダイオード（LED）やCCDカメラにより、工具の先端位置や摩耗の度合いなどを測る。

測定分解能は0・1ミリの（マイクロは100万分の1）。撮影枚数が増えることで、刃の動きを瞬間でとらえる。演算処理や画像解析の機能も高めらる。

また外径の大きい刃物を測るために筐体の投光部分と受光部分を分離。刃の外径が100ミリの工具までしか対応できなかったが、外径300ミリまで測定できるようにする。

産総研は経済産業省から「08年度産業技術研究開発事業（中小企業支援型）」を受託。中小企業の持つ研究開発に利用できる計測機器などを普及させる事業で、ジェイコアの高速測定が研究開発課題に採択された。